

「 私達の出来る土砂災害対策 」

群馬県 渋川市立渋川北中学校 2年 伊佐山 蓮

「次のニュースです。福岡県朝倉市で土砂崩れがあり、二人が遺体で発見されました。死者は福岡・大分両県で 23 人となりました。福岡県東峰村では土砂崩れなどの恐れがあるとして、天候によっては避難指示を出す方針だということです。」

7月の初め、つけたままのテレビから流れてきたニュースに私ははっとしました。そして、「まただ」と思ってしまいました。

ニュースや新聞を見たりしていると、土砂災害が起きて大切な家族、友人が亡くなってしまった方が、泣きながら「どうにもできなかった。」と言っていたのを思い出していました。自分の大切な人を失うのはとても悲しいし、辛く悔しいだろうと思いました。地球温暖化が言われてから何年も、豪雨や水不足、竜巻、気温が 40 度近くまで上がるといった異常気象が頻繁に起こっています。そんな中で、私達が住む群馬県は四方が山に囲まれているので、災害の中でも土砂災害はいつ起きてもおかしくない身近なものだと考えました。私は土砂災害が起こってしまったらどうにも出来ません。でも、起こる前になら出来ることはたくさんあるのではないかと、大人だけではなく、中学生の私達もしっかりした対策を考えていかなければならないと思いました。

そのためには、私はどのような対策を考えなければならないのだろうと疑問をもち、祖母が毎日読んでいる新聞に目をつけました。新聞を一枚一枚見ていると、大きな見出しに「豪雨から命を守るために」とあり、迅速な避難をするための普段からの準備が載っているを見つけました。このところの九州での豪雨による土砂災害の影響もあり、土砂災害についての災害対策が大きく載っていました。

そこには、まず、最寄りの「指定緊急避難所」や避難所となる施設を把握して自宅からの所要時間を確かめる。そして、自治体を作るハザードマップなどを使って、「土砂災害警戒区域」など自宅周辺の危険な場所をあらかじめ調べておく事が大切だとありました。

まずは、避難して安全を確保できる場所を知っておくこと。危険な場所を知っておくことは自分でも出来る対策でした。

そして次には「非常持ち出し袋の準備と見直しも忘れず」とあり、非常持ち出し品チェックリスト、準備のポイントがありました。人によって持ち出すものの優先順位は変わるようですが、現金（公衆電話代）・飲料水・非常食・軍手・ポリ袋など日本赤十字社のチェックリストが載っていました。家には、用意がしてあり、それを見てうれしくなっていました。でも、確かに準備はもしものためにしてあったのですが、すべて母親や家族がやってくれていました。何一つ、自分でやっていないことに気づき、これでは自分で動くという意識が足りなかった。もう中学生なのだから自分で出来る範囲の準備は自分で動いていかなければならないと思いました。

私は、この新聞記事を読みながらもう一つ大事なことがあると気づきました。それは、足や目が不自由な人や、お年寄りはどうにすれば安全に避難できるのだろうと考えたことでした。私が思いついたのは、近所の人とコミュニケーションをとるということでした。私の住んでいる近くにもたくさんのお年寄りがいるので、災害が起こりそうになって避難する時は、助け合っていけるようにあいさつなどでコミュニケーションをとって顔見知りになっておけば、〇〇さんがいないなど気がつきやすく、全員が災害から命を守ることが出来ます。

被害にあった方が、土砂が崩れる前、避難指示が出ていなかったと答えていたのを見ました。土砂災害は予告不可能なこともあります。だから、命を守るためには避難指示に頼らず、危険だと思ったときは、早めの自主避難も必要です。その時こそ、みんなの協力が必要です。私達も一人で出来ないこともあります。みんなが協力して一人一人がいろいろな準備をすることが土砂災害に対しての一番の命を守る方法だということが分かりました。

私達は、中学生で、自分で出来る範囲は狭く限られていると思います。でも、自分で出来ることがないわけではありません。土砂災害が起こりそうになって、避難指示が出たとき、自主避難をした方がいいとき、何をしたいのか分からなかったのでは命を落としてしまうことになるかもしれません。普段からの避難場所の確認・非常持ち出し袋の準備と見直し・近所の人達とのコミュニケーションで協力し助け合うことが私達の出来る土砂災害から命を守る方法なのではないかと思いません。